



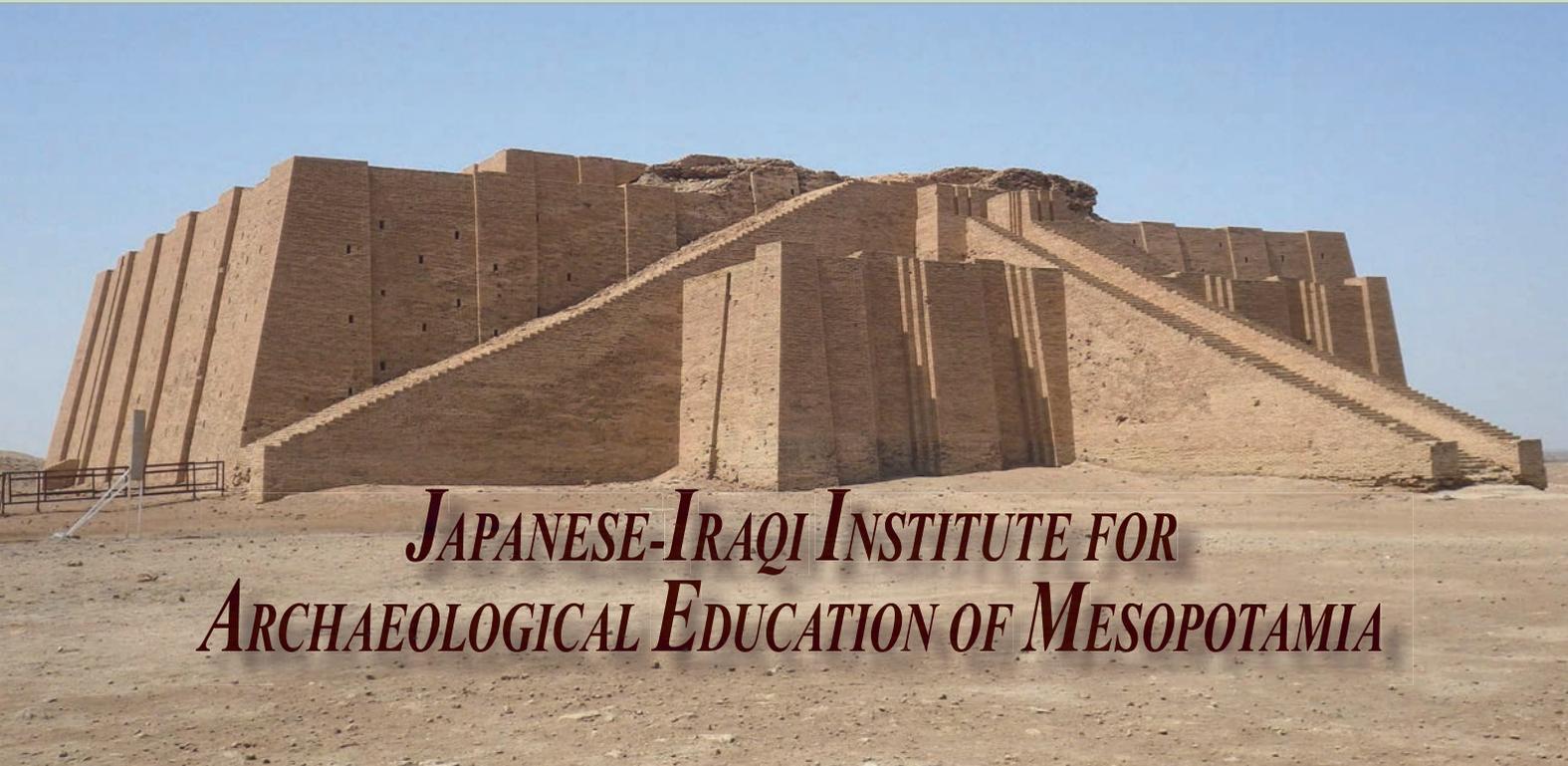
メソポタミア考古学教育研究所 ニューズレター

6号

2024年5月

目次

報告1	第6回通常総会 (2023年7月30日)	2
報告2-1	遺跡マッピング キックオフシンポジウム (2024年1月31日)	4
報告2-2	遺跡マッピング 第1回ワークショップ (2024年3月6～7日)	10
報告3	2023年度第1～6回勉強会 (2023年10月13日、11月17日、 2024年1月19日、2月23日、4月12日、5月10日)	14



*JAPANESE-IRAQI INSTITUTE FOR
ARCHAEOLOGICAL EDUCATION OF MESOPOTAMIA*

報告 1

第 6 回通常総会

日 時 2023 年 7 月 30 日 (日) 15:00 ~ 16:00

会 場 藤沢市市民活動推進センター 会議室 A

出席者 対面 4 名 + 委任状 21 名 + 書面評決 1 名 = 計 26 名

(開催時の正会員総数 35 名のため、総会は定款に則り正式に成立)

開会挨拶

小泉龍人代表理事より、総会当日 12 時時点で 2023 年度の会費納入を終えている正会員の総数 (35 名) のうち、Google フォーム・ハガキによる参加者 22 名 (委任状 21 名、書面評決 1 名)、対面出席者 4 名、計 26 名出席となり、過半数を越えているため総会が成立することが宣言された。

議長団選出・代表挨拶

議長に榊原智之理事、書記に樋口昭博会員が指名され承認された。代表理事より、平素からの活動への協力に対する謝意、新型コロナウイルス第 9 波に感染された方々へのお見舞いの言葉があり、第 6 回通常総会を藤沢市市民活動推進センターにて開催するにあたり、会員の健康を最優先とし、新型コロナ感染拡大防止の観点から、来場を自粛するようお願いしたとの説明があった。

議題

・第 1 号議案：2022 年度事業報告

今年度は活動 5 年目に入り、過去 4 年間の活動成果を踏まえ、引き続き活動内容の質的及び量的な改善を図ること、設立時に掲げた中長期的な現地調査プロジェクト (APSU) の実現を見据えた活動基盤の強化に取り組むとともに、各事業を円滑に推進するため、実行体制の更なる整備を行うこと、新型コロナウイルスの感染拡大により再延期した国際シンポジウムはハイフレックス方式 (対面・オンライン) でイラク関係者・関係機関との提携に努めるが、感染状況を見極めながら臨機応変に対処して行くこと等を勘案して事業活動

に取り組むこととした。尚、国際シンポジウムおよびディスカッション「メソポタミアの水と人」は 23 年 10 月 22 日に東京文化財研究所にて開催された。

・第 2 号議案：2022 年度会計報告 (活動計算書)

収入総額 339,013 円、支出総額 103,838 円、これに前期繰越金 1,775,330 円を加えて、差し引き 2,010,505 円が今年度の繰越金であったことにつき、代表理事から説明があり、以上 2 件の議案が満場一致で可決された。

・監査報告

榊原康夫監事より、事業報告書、計算書類が適正であるとの報告があった。

・第 3 号議案：2022 年度事業計画

今年度は活動 6 年目に入り、引き続き活動内容の質的および量的改善を図りつつ、JIAEM 設立時に掲げた中長期的な現地調査プロジェクト (APSU) の実現を見据えた活動基盤の強化に取り組み、引き続きイラク関係者・関係機関と協働していく。昨年度同様、活動基盤の強化に向けて、活動の主たる役割を担う社員 (正会員) には各事業の運営や企画において直接的に貢献していただき、活動趣旨への賛同を前提として賛助会員には主に資金面等で後方支援していただく態勢づくりを明確にする方策を継続する。新規事業として、イラク国内の社会調査、メソポタミアの遺跡マッピングに注力する。

おもな事業内容は以下の通りである：(1) イラク国内の社会調査 (イラクの若手教員・研究者の